

学生における思いやりのところと行動*

杉村 健**

(心理学教室)

要旨：慈善事業、社会的弱者および未知の人に対する思いやりのところと、思いやりの行動を査定する質問項目を作成し、4つの学校の学生に実施した。思いやりのところも行動も女子の得点が高かった。思いやりの行動では有意差がなかったが、こころの得点は教育学部よりも農学部の方が高かった。すべての学生で、思いやりのこころより行動の得点が低い、そのずれは、教育学部の男子と未知の人の場合に小さかった。内向性の者は外向性の者よりもずれが大き、思いやりのこころを行動化しにくい傾向があった。

キーワード：思いやりのこころ、思いやりの行動、こころの行動化

対人関係において「思いやり」が大切であるといわれているが、それは、人々に思いやりがあまりないことを反映している。思いやりが具体的にどのようなものであると考えるかは、人によって異なるであろう。ある国語辞典によれば、思いやりとは“人の身の上や心情について察し、同情すること”とある。これは共感とか同情といったこころの働きにかかわるものである。祐宗・堂野・松崎(1983)は、思いやりの基礎として他人に「共感する」心情と「柔軟なものの考え方」の2つの心の働きをあげている。このように、日本語の思いやりという言葉は、行動よりもこころ(心情)に重点がおかれている。

比較的最近になってアメリカでは、これまで注目されていた反社会的行動や非社会的行動にかわって、prosocial behaviorの研究が行なわれるようになってきた。これは向社会的行動、順社会的行動、社会的支援行動、社会福祉行動などと訳されていたが、現在では「向社会的行動」として定着しており(菊池, 1983)、日本語の思いやりに相当するものと考えられている(菊池, 1983)。事実“prosocial behavior”という著書の表題が「思いやり」(菊池, 1980)または「思いやり行動」(菊池・二宮, 1991)と訳されている。

菊池(1986)は、Mussen & Eisenberger(菊池, 1980)の向社会行動の定義に基づいて、思いやり行動の特徴として、①相手(個人、集団)のためになる、②相手からのお礼を期待しない、③自分に何らかの損失が伴う、④自分から進んで行なうの4つをあげている。要約すれば、自発的で、報酬を期待しない、援助(支援)行動である。この場合は、こころよりも行動に重点がおかれている。

本研究では、このような特徴と、菊池(1986)と二宮(1991)に紹介されている質問項目を参

*Prosocial Mind and Behavior in Students

**Takeshi SUGIMURA (Department of Psychology, Nara University of Education, Nara 630)

考にして、新たに、思いやりのところと思いやりの行動を調べる項目を作成した。援助を必要とする対象として、慈善事業、社会的弱者、未知の人の3つを取り上げた。次に、思いやりを表していると考えられる項目を作り、心理学専攻の大学院・学部学生15名に検討してもらった。その結果に基づいて修正・削除し、表1に示す12項目を決定した。各項目で“～したいと思う”によって思いやりのところ、“～する”によって思いやりの行動が査定できると仮定した。菊池（1988）は、思いやり行動の得点が教育学部、理学部、工学部よりも経済学部の学生の方が低く、また、女子よりも男子が低いことを示したが、思いやりのところと行動を区別していない。

本研究では、教育学部の学生（男女）、農学部で教職課程を受講している学生（男女）、保育専門学院の学生（女子）および看護学校の学生（女子）について、思いやりのところと思いやりの行動がどのように異なるかを調べる。

思いやり行動が生じる過程には、少なくとも次の3つがある。①援助を必要とするような対象に遭遇する。②それに対して共感・同情し、援助したいという思いやりのところが生じる。③それが行動化されて思いやりの行動になる。幼児では、思いやりのところと思いやりの行動が一致していることが多いが、年長になるにつれて両者のずれが大きくなると考えられる。本研究では、このずれが生じる要因の1つとして向性を取り上げた。外向性の者は行動的であるので、内向性の者よりも思いやりのところと思いやりの行動のずれが小さいと予想される。

方 法

調査対象：調査対象は、教育学部男子49名、女子84名、農学部男子48名、女子69名、保育専門学院女子64名、看護学校女子44名であった。

調査項目：(1) 思いやり—表1に示したように各対象4項目ずつからなり、それぞれについて“～したいと思う”という思いやりのところと、“～する”（括弧内）という思いやりの行動を尋

表1 思いやりの質問項目

〈慈善事業〉

- ①慈善事業に進んで参加したいと思う（参加する）。
- ②慈善事業の商品を進んで購入したいと思う（購入する）。
- ③慈善事業に衣類などを進んで寄付したいと思う（寄付する）。
- ④進んで献血をしたいと思う（献血をする）。

〈社会的弱者〉

- ①お年寄りが立っていたら、席を譲りたいと思う（席を譲る）。
- ②目の不自由な人が困っていたら、声をかけたいと思う（声をかける）。
- ③車椅子の人が困っていたら、声をかけたいと思う（声をかける）。
- ④子どもが一人で泣いていたら、声をかけたいと思う（声をかける）。

〈未知の人〉

- ①道で迷っている人を見かけたら、道を教えたいと思う（道を教える）。
 - ②怪我人や急病人をみたら、声をかけたいと思う（声をかける）。
 - ③知らない人が物を落としたら、教えたいと思う（教える）。
 - ④急いでいる人がいたら、順番を譲りたいと思う（順番を譲る）。
-

ねる2項目を作った。実際の配列は同じ対象の項目が続かないようにした。

(2) 向性-Y-G性格検査のS特性とA特性の24項目を用いた。

調査方法：“つぎのようなことに会ったらどのように思いますか”と教示し、各項目を読みあげ、「全く思わない」なら1、「あまり思わない」なら2、「ときどき思う」なら3、「いつも思う」なら4で答えてもらった。次に、Y-G性格検査の24項目を読みあげ、手引きのとおりにおりに回答してもらった。最後に、“次のようなことに会ったら実際にどのようにしますか”と教示し先とは異なる順序で各項目を読みあげ、「まったくしない」なら1、「あまりしない」なら2、「ときどきする」なら3、「いつもする」なら4で答えてもらった。

結果と考察

表2は、学校・学部別の思いやり得点の平均を示したものである。学部と男女の違いをみるために、教育学部と農学部について2×2の分散分析を、女子の学校差をみるために、1要因の分散分析を行なった。こころマイナス行動の得点については、分散分析の他に差の値そのものの有意性の検定を行なった。

表2 学部・学校別の思いやり得点の平均（最高16点）

	教育学部		農学部		保育学院	看護学校
	男子	女子	男子	女子	女子	女子
思いやりのこころ						
慈善事業	9.04	10.52	9.17	10.46	10.06	10.64
社会的弱者	11.12	12.95	12.10	12.91	13.44	13.39
未知の人	11.22	12.83	12.19	13.06	12.69	12.98
合計	31.38	36.30	33.46	36.43	36.19	37.01
思いやりの行動						
慈善事業	7.10	8.51	7.02	8.03	7.94	9.41
社会的弱者	10.14	11.06	9.92	10.67	11.98	11.41
未知の人	11.16	12.27	11.06	12.03	11.92	11.52
合計	28.40	31.84	28.00	30.73	31.84	32.34
こころマイナス行動						
慈善事業	1.94	2.01	2.15	2.43	2.12	1.23
社会的弱者	0.98	1.89	2.18	2.24	1.46	1.98
未知の人	0.06	0.56	1.13	1.03	0.77	1.46
合計	2.98	4.46	5.46	5.70	4.35	4.67

思いやりのところ：慈善事業では性の主効果が有意 ($p < .01$) で女子の方が高かった。社会的弱者では、学部の主効果が有意 ($p < .10$) で農学部の方が高い傾向があり、性の主効果が有意 ($p < .01$) で女子の方が高かった。交互作用も有意 ($p < .10$) で教育学部の男子が低かった。未知の人では、学部の主効果が有意 ($p < .05$) で農学部が高く、性の主効果が有意 ($p < .01$) で女子の方が高かった。合計では、学部的主効果が有意 ($p < .10$) で農学部が高く、性の主効果が有意 ($p < .01$) で女子の方が高かった。交互作用は有意でなかったが、教育学部の男子が他よりも低かった。1 要因の分散分析で女子の学校差は有意でなかった。

思いやりの行動：慈善事業 ($p < .01$)、社会的弱者 ($p < .05$)、未知の人 ($p < .01$) および合計 ($p < .01$) のすべてで性の主効果だけが有意であり、女子の方が高かった。1 要因の分散分析では、慈善事業が有意 ($p < .01$) で看護学校が最も高かった。

思いやりのところマイナス行動：慈善事業では有意差がなかった。社会的弱者では、学部的主効果が有意 ($p < .01$) で農学部の差が大きく、性の主効果が有意 ($p < .10$) で女子の差が大きかった。未知の人では、学部的主効果が有意 ($p < .01$) で農学部の差が大きかった。合計では、学部的主効果だけが有意 ($p < .01$) で農学部の差が大きかった。交互作用は有意でなかったが、教育学部の男子の差が小さい傾向があった。1 要因の分散分析では、慈善事業が有意 ($p < .01$) で看護学校の差が最も小さかった。ところと行動の差の値は、教育学部男子の未知の人 (0.06) 以外はすべて有意であり、行動よりもところの得点が高かった。

思いやりの心も行動も、すべての対象について男子よりも女子の得点が有意に高かった。これは先の研究 (菊池, 1988) と一致しており、男子よりも女子の方が思いやりがあると結論することができる。思いやりの行動では学部間に有意差がないが、思いやりのところでは教育学部よりも農学部の得点が高く、特に教育学部の男子が低い傾向があった。この点については、さらに人数を増やして確認しなくてはならないが、同様な結果が得られるならば、教育学部 (特に本学) の男子は思いやりのところがあるという暗黙の信念を捨てなくてはならない。また、農学部といっても進んで教職課程を受講している学生であるので、教育的な関心をより強く持っているのかもしれない。しかし一方では、教育学部の男子はところと行動のずれが最も小さく、特に、未知の人に対しては両者がほとんど一致しているので、彼らは、思いやりのところを行動化しやすいという長所をもっていることが示唆される。

ところと行動のずれは予想されたことであり、事実、教育学部男子の未知の人以外はすべて、行動の得点よりもところの得点が有意に高かった。しかし、ずれの大きさは思いやりの対象と集団によってかなり違いがある。合計でみると教育学部よりも農学部の方がずれが大きく、教育学部の学生の方がところを行動化しやすいことが示唆される。集団を込みにした対象別の平均を算出すると、慈善事業が 1.98、社会的弱者が 1.79、未知の人が 0.84 であり、慈善事業に対する思いやりは行動化されにくく、未知の人に対する思いやりは行動化されやすいことが示唆される。

看護学校の学生は慈善事業に対する思いやり行動が最も高く、ところと行動のずれが最も小さかった。これは、卒業後は看護婦になるという目的意識を反映しているのかもしれない。

本研究では、内向性の者よりも外向性の者の方が思いやりのところと行動のずれが小さいと予

想した。Y-G 性格検査の S 特性と A 特性の合計点が高い方から30%の者を内向者、低い方から30%の者を外向者として選出し、こころマイナス行動の平均を算出した。その結果が表3である。

内向者と外向者の有意差 (*t*) 検定を行なったところ、保育学院の社会的弱者 ($p < .05$)、未知の人 ($p < .05$) および合計 ($p < .01$) で内向者の方が有意に高かったが、予想していたよりも有意差を示す箇所が少なかった。そこで、差の方向について2項検定を行った。合計の部分を除いた18の差のうち、内向者の方が大きい場合 (15) が外向者の方が大きい場合 (2) よりも有意に多く ($p < .01$)、この点では内向性の者のずれが大きいという予想が支持されたといえる。本研究では、集団ごとに上下30%の者を選んだが、各集団の人数があまり多くなかったので、明確な違いがでなかったのかもしれない。今後は、この点を確認めるとともに、こころと行動のずれに影響する他の要因についても検討する必要がある。

表3 内向性の者と外向性の者の思いやり得点 (こころマイナス行動の平均)

		教育学部		農学部		保育学院	看護学校
		男子	女子	男子	女子	女子	女子
慈善事業	内向者	2.19	1.86	2.88	2.87	2.43	1.33
	外向者	1.56	2.04	1.94	2.70	1.76	1.20
	差	0.63	-0.18	0.94	0.17	0.67	0.13
社会的弱者	内向者	0.94	1.82	2.81	2.70	2.24	2.33
	外向者	0.69	1.79	1.94	2.48	1.05	2.07
	差	0.25	0.03	0.84	0.22	1.19	0.26
未知の人	内向者	0.19	0.86	1.81	1.35	1.52	0.80
	外向者	0.19	0.43	1.31	1.13	0.38	0.87
	差	0.00	0.43	0.50	0.22	1.14	-0.07
合計	内向者	3.32	4.54	7.50	6.92	6.19	4.46
	外向者	2.44	4.26	5.19	6.31	3.19	4.14
	差	0.88	0.28	2.31	0.61	3.00	0.32

引用文献

- 菊池章夫 (訳) 1980 マッセン, P.・アイゼンバーグ, N. 思いやりの発達心理 金子書房
 菊池章夫 1983 向社会的行動 波多野・依田 (編) 児童心理学ハンドブック 金子書房,

715-734.

菊池章夫 1986 思いやりと性格 鈴木・清水・松井（編）パッケージ・性格の心理⑤ ブレーン社, 80-93.

菊池章夫 1988 思いやりを科学する—向社会的行動の心理とスキル— 川島書店

菊池章夫・二宮克美（訳）1991 アイゼンバーグ, N.・マッセン, P. 思いやり行動の発達心理 金子書房

二宮克美 1991 思いやり 宮沢・二宮・大野木（編）自分でできる心理学 ナカニシヤ出版, 82-85.

祐宗省三・堂野恵子・松崎 学 1983 思いやりを育てる 有斐閣

〈付記〉資料の収集にあたり奈良教育大学豊田弘司先生、奈良保育学院清水益治先生、資料の分析にあたり心理学専攻4回生池内志織、小椋美奈、佐藤紀子、3回生伊禮徳彦、沖野陽子、櫛谷圭子、平井理香の皆さんの協力を得ました。こころから感謝します。